

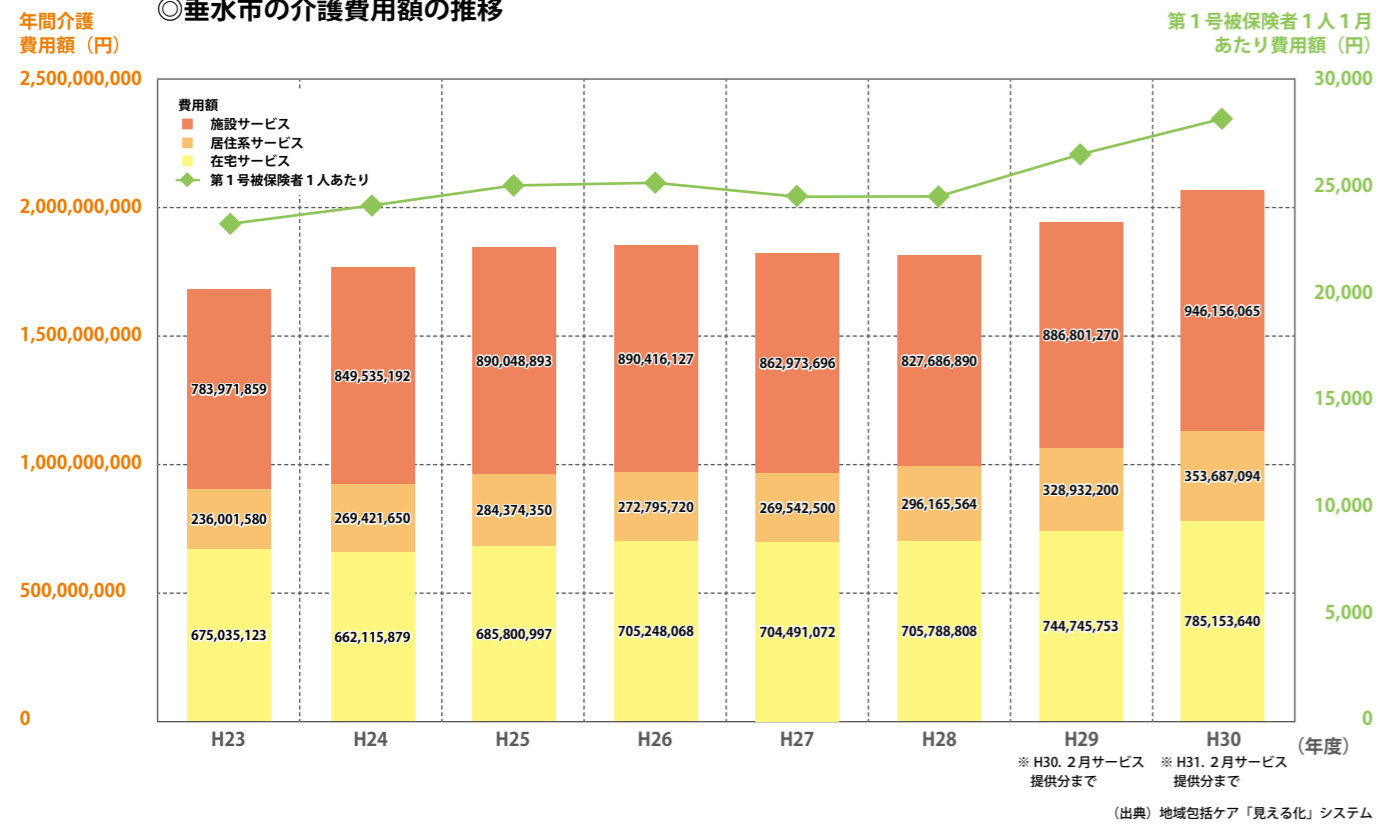
住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためのまちづくりをめぐして

介護保険制度は、増え続ける高齢者の介護を社会全体で支える仕組みとして平成12年4月に創設されました。制度が始まって19年が経過し、高齢者の暮らしを支える大切な制度として現在まで定着しています。

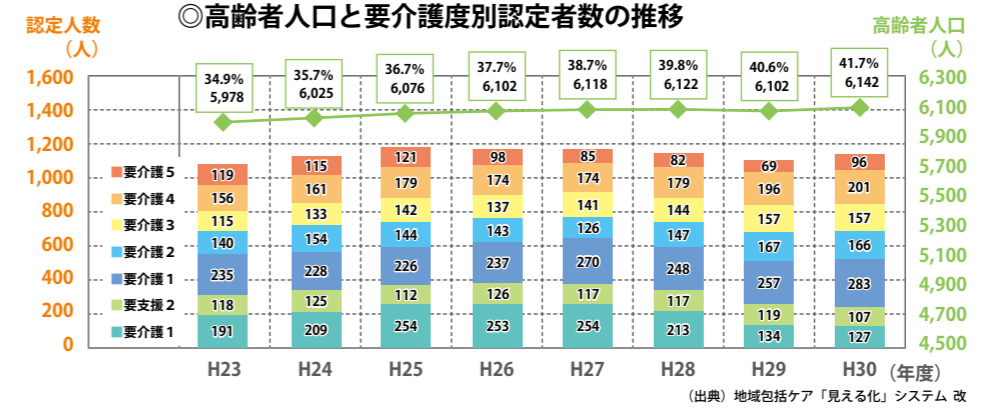
これからも垂水市では、介護が必要になっても、住み慣れた地域や住まいで暮らし続けられるよう、「高齢者の自立支援」と「持続可能な介護保険運営」をめざして介護保険サービスの充実に取り組んでまいります。

本ページでは、垂水市の介護保険を取り巻く現状と課題についてご紹介いたします。

◎垂水市の介護費用額の推移



◎高齢者人口と要介護度別認定者数の推移



介護費用

現状

平成28年度まで実績額は、ほぼ介護保険事業計画どおり推移をたどっていたが、平成29年度からは介護人材の処遇改善のための介護報酬改定、平成29年3月末に民間一般病院の閉院により入院患者が施設サービス利用に流れた影響や通所介護事業の増加等により介護費用の増加となった。

課題

「施設」から「在宅」への国の施策の中、依然として施設依存が高いうえ、介護保険料を納付しているのだから利用できるサービスは利用するという考えやサービス提供者や病院からの誘導によりサービスが提供されている事例が見受けられるため、介護費用の抑制もあるが真に必要なサービス提供するため、今後は給付費適正化を強化しなければならない。

要介護(支援)認定

現状

平成25年度まで要介護者の認定者数は増加傾向であったが、平成26年度以降は認定の適正化により、ほぼ横ばい状態。平成29年度は、新しい総合事業により要支援者が減少に転じたが、平成30年度は再び要介護軽度者が増加している。また、人口に影響される認定率においては、本市はほぼ全国と同じ認定率を推移しているが、鹿児島県や近隣市と比べ低く推移している。

課題

国の施策である「施設」から「在宅」へにより、安にサービスを利用するためや将来サービスを受けるための保険として、認定を受ける方が見受けられるため、介護保険の基本理念である「自立支援」の制度であることを今後もしっかりと周知していく必要がある。

11月11日は「介護の日」

いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう

介護について理解と認識を深め、利用者、家族、介護従事者、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進するため、介護に関する啓発を重点的に実施するための日として制定されました。

「介護の日」を記念して、この前後にさまざまなイベントや広報活動を行い、これからの介護のあるべき方向性を発信しています。



◎認定率(要介護度別) / 垂水市

